

●●コラム 木を見ずに森を見よう！！（探究担当 直井良太）

【探究のサイクル】



今回、ジャーナルに「478人の探究が動き出す」というタイトルをつけました。

本所高校では探究の時間が始まって、2年目を迎えています。そして、1・2年生の皆さんがそれぞれの興味を掘り下げていくことで478個のテーマが生まれようとしています。

中には、「こんなめんどくさいことさせんなよ！」とか「普通の授業のほうが楽だ」と思う人もいると思います。「探究はすごくやりたいんだけど、興味のあるものがわからない」とか「いよいよ論文ってなってくるとどうまとめていいかわからない」と思っている人もいると思います。

しかし、皆さんには目の前のこと（木）だけで判断せず、この「探究の時間」全体（森）を見てほしいと思います。探究は本気でやればやるほど、**楽しさと苦しさ**が共存してくるようになります。その時に上の図のように**全体のサイクルを意識したり、「この苦しみの後に自分の価値観が変わっているかもしれない」と思うことが3年間探究を続けていく上では大事な考え方**だと思っています。

実は、我々担当教員も毎週集まって1時間程度の授業の打ち合わせや事後の振り返りを行っています。皆さんも不安だと思いますが、我々教員も毎回手探りで進んでいます。文字通り、**本所高校の皆（生徒・教員）でこの探究を形にしている最中なんだな**と感じています。

そんなことも頭の片隅に置きながら、心残りの無いような時間を過ごしていったら本当にうれしいです。

●●コラム 探究がイヤ？（情報テクノロジー分野 岡本 優太）

時々探究がイヤだという話を耳にする。**僕も大学時代、研究（探究）がイヤになったことがある**。僕の場合は、教授からのアドバイスや指摘を「自分に対する非難」ととってしまったことが原因だった。

探究に対して、面倒・怖い…等々いろいろな理由で「イヤ」と思っている人は、**見方を変えたり、新しい視点を入れたりすることで、本当に面白いものになる可能性を秘めている**。残されている時間は長くないが、友達や先生と話したり、探究を進めていく中で、新たな可能性を探してみよう。

探究ジャーナル（1学期総括号）

発行日
令和2年8月25日

478人の探究がそれぞれ動き出す

発行者
進路・探究部
探究担当 直井

☑1年生に向けて、2年生の2人が探究の経過を報告してくれました



私が1年生の頃、**探究の時間にどんな意味があるのか、なんのためにやるのかがよく分かっていませんでした**。

特に興味のあるものもなく、海外はオシャレだから好きという理由だけで国際分野を選択し、**授業中はただ時間が過ぎるのを待っているような状況**でした。

今の問いは5個目くらいの問いになります。

それまでの問いは調べても面白くなく、すぐに答えが出てしまうようなものばかりでした。

無駄な時間を過ごして遠回りをしましたが、**今の問いを見つけてからは探究が楽しくなってきました**。

探究をし、新たな知識を得ると新たな疑問が生まれてきます。それを調べるとまた知識が増えて疑問が生まれるの繰り返しです。

普段の授業では得ることのできない、自分で調べていく楽しさを味わうことができました。

皆さんにもぜひこの楽しさを感じてほしいです。

いきなり問いを見つけてと言われても難しいかもしれませんが、**まずは自分の好きな分野についてインターネットで調べてみたり、それについて先生方とはなしてみたりして少しずつ興味をもてるものを見つけていければいいのではないかと**思います。

皆さんも私と一緒に探究頑張りましょう！

（国際分野 山口 翔子）



～1年生の振り返り～

仮説を立てることで、**どんどん興味も広がっていく**と思うし、調べやすくなっていくと思うので、仮説を立てながら探究していきたいなと思いました。

5個目でこのテーマを見つけたと言って、私も様々なことを調べながら自分に合うテーマを見つけていきたいと思いました。

私は1年生の皆さんには**探究をやっている楽しいと思えることをテーマにしてほしい**です。

例えば、なんで本所にはアイスの自動販売機がないのか？**こんな小さなことでも自分が楽しめるならなんでもいいんです**。

自分のペースで沢山悩んでこれだ！と思ったことを探究のテーマにしてみてください。

（自然科学分野 関谷 侑香）

仮説を立てることで、**どんどん興味も広がっていく**と思うし、調べやすくなっていくと思うので、仮説を立てながら探究していきたいなと思いました。

先輩のスライドを見て、どのように学びを広げていってるか、問いを立てるやり方、調べ方を知ることができて良かったです！私もまだ探究のテーマで迷っているのでもう少し絞って探究したいです。

【1年生】 探究ガイダンスや、探究を進めていくための考え方を学ぶ

【6/17,18 問いの立て方ガイダンス】

- 探究はスタートもゴールも自分で決めていく学び
- 日常に探究を忍ばせよう

【7/15 問いの立て方②】

- 自分の興味をイメージマップで表す。
- 問いの型を知る

【7/30 探究ガイダンス+情報収集の方法】

- 先輩は探究をどう思っているか？（探究ジャーナルを読む）
- 知れば知るほど新しい疑問が生まれてくる



授業中の共有の様子

【問いの立て方ガイダンス 振り返り】

・分からないことは調べてそしたらまた分からないことが出てくると思うのでその調べる過程を楽しみたいです

・1つのテーマについて問いを考えるということは、思った以上に難しかったです。自分のやりたいことを見つけることはまだ時間がかかりそうですが、物事を多面的に見てみることで自分の視野も広がると思うのでこれから実践していきたいと思います

・これから活動を通していくうえで意志の変化があるとおもうので、変えたりするのが大変でも楽しそうに自分にとって有意義な時間になるようにいろんな考えを持ちながら向き合い、探究して自分の答えを見つけようと感じました。

【7/30 探究ガイダンス・情報収集の仕方 振り返り】

・先輩方の探究に対する意識や気持ちを聞くことができ、自分も本当に学びたいものを見つけ、それについて学んでいきたいと思いました

・探究の時間だからこれやるぞっ！じゃなくて日頃から探究を意識しようと思った

・2年生の探究についての言葉にとっても共感した。自分も興味を持っている事を深く探究したい。

・先輩の声を見てみて、自分も後に後悔をしないよう、常に探究のことに触れたり考えたりしていこうと思った。

・国際関係について自分の問いを立てました。興味がとても湧いたのでどんどん進めることが出来ました。楽しく感じました。また、自分が立てた問いは人文学や経済にも繋がると感じました。学問はそれぞれ別れているけれど、それぞれの学問どうしの繋がりがあってもいいんじゃないかと思いました。

・自分のテーマを深く掘り下げていくと自分の知らないことがどんどん出て来て興味が湧き、たのしかった。自分が知っているだろうと思っていることでも実は知らなかったり、驚いたりすることがあるんだなーと実感することが多かった。情報収集ではただ1つの、情報だけを見るんじゃなくて視野を広く持つことが大切だと思った。



【2年生】 「自分の探究を見つめ直す」+「ゼミ活動開始・発表会実施」

【6/17,18 休校期間を振り返る+生徒の論文を読む】



休校期間中の Classi 振り返りを読んでさらに振り返る

休校期間の前(1年生)の時の自分はどのように考えていたか

・探究はただやらされるものだと思っていた。受験科目にもないし、やってない学校もあるのに何で本所はやらないといけないんだろう。

休校期間を終えて、今考えている事

・今までの自分は探究に積極的ではなかったが、論文を書く、ガイダンスを聞くうちに深めていくのが楽しくなって「1から10までルールをしいていけること」がとても面白いと思えるようになった。

休校期間を終えて、今考えている事

・気づかないうちに、もうネットだけでは十分に探すことのできないテーマにたどり着いていることを実感しました。論文などのより専門的な知識が必要だと改めて思いました。

【8/4 探究代表発表会】



自然科学分野
關谷さん



情報テクノロジー分野
法橋くん



人文学・芸術分野
奈須田くん



社会学分野
中村さん



国際分野
山口さん

・大切なことは、定義づけと仮説、考察が大事だなと思いました。
・こんなにすごい人たちが同じ学年にいるんだと感動したけど、それだけで終わらず自分もそこについて行く気持ちでやらないとだめだとわかった。全体を通して、根拠、理由がはっきりしていたので、自分もそこをしっかりとしたい
・自分がまだまだ置いてかれていたと感じた。でも、直井先生が言っていたとおりに同じ時間を過ごしてきた仲間も出来たら自分も出来ると思ったので頑張ろうと思う。



【8/6 ゼミ活動】



2年生は、各分野で3~4人の小グループ(ゼミ)に分かれ、探究活動を行っています。ゼミ活動のねらいは、お互いが探究の進捗を報告していくことによる相乗効果です。

この日は、夏休みに自分がどのように探究計画を進めていくかを考える探究活動計画書を作成し、ゼミのメンバーでフィードバックをしました。担当教員や大学院TAも、それぞれのゼミに入って支援をしています。

